

全国屈指のクライム

笠置山クライミングエリアであそぼう



▲笠置山クライミングエリアでは、全国からクライマーが訪れ、さまざまな課題を楽しんでいる

笠置山の中腹には、昨年オープンしたクライミングエリアと呼ばれる岩登りを楽しむ場所があります。

オープンと同時に、同エリアは「恵那笠置山」として、全国のクライマーから熱い視線が送られています。一年間の来場者数は、約3000人。首都圏や愛知県を中心に、遠くはカナダからクライマーを集める一大エリアに成長しました。これは、笠置山にある岩が程よい硬さと手ざわりで、クライマーにとって魅力的な上、地域住民が中心となって、手作りでクライミングエリアを整備したことによるもの。

昨年6月14日のオープンから一周年を迎え、7月25日には記念イベントも開催され、約1000人がボルダリングを楽しみました。

今回は、地域の人によって整備されたクライミングエリアと、平成24年度に開催する岐阜清流国体の正式種目で、人気が上昇中のスポーツのボルダリングについて紹介します。

□問い合わせ 笠置振興事務所 ☎27-3155

きっかけは2年前に

ボルダリングは、もともとはこの地域には縁がないものでした。そのエリアを整備するきっかけは、2年前のことです。地域のクライマーがプロクライマーの小山田大さんに笠置山の岩を紹介して、このエリアの素晴らしさが認められました。そして、所有者の置財産区に、エリアの開拓と公開について話をしました。地域では以前から、笠置山で登山道の整備やヒトツバタゴの管理を行ってきました。さらに、まちづくりの試行を重ねていたところに、いいタイミングでこの話がありました。地域の人は、ボルダリングを知ることから始めようと、先進地に視察へ出掛け、全国から集まるクライマーを見て、笠置町の観光に新しい可

能性を感じました。

その後、協議を行い「クライマーが楽しめるように」と、エリアの開拓と整備が始まりました。

観光資源として開発

ボルダリングは、エリアを開拓し、ルート設定しないと楽しめません。視察で見た先進地は、立地も良く、駐車場も近くにありました。しかし笠置山には、駐車場も無く細い林道があるだけで、非常に条件が悪いものでした。そこで、受け入れ体制を整え、1年かけてルートの開拓とエリアを整備。エリアの公開に向けて、市観光協会笠置支部や笠置町振興会、財産区議会などの多くの団体が協力をして、平成20年12月に笠置山クライミング協会を設立しました。エリアを、笠置町の観光資源と



▲岩登りを楽しむクライマー
▲整備されたトイレと駐車場、案内看板

ボルダリングとは…

クライミングの一種で、ロープなどの確保道具を使わずに、岩（ボルダー）や、人工壁を登ること。自身の体と技術で登るボルダリングは、クライミングの基礎的な要素を多く含んでいる。

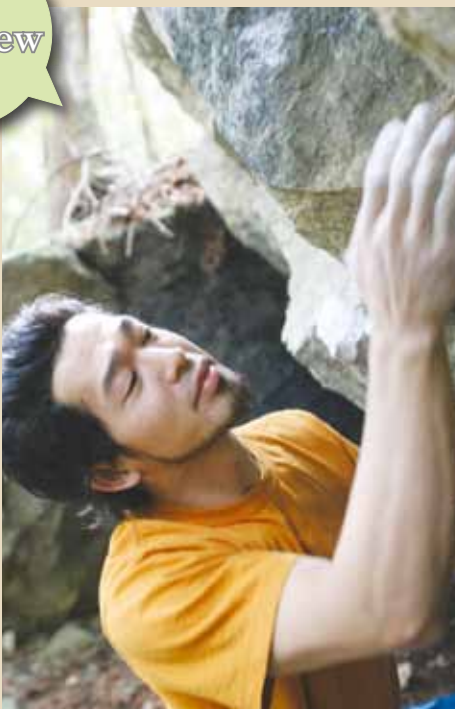
エリアの周辺も整備

地域の主な活動内容は、エリアの周辺整備です。エリアオープンに向け、案内看板を設置し、約50台分の駐車場や水道も整備。クライマーが、エリアで困るというトイレも2カ所に設置しました。一般の方でも気軽に楽しめるように、人口壁も整備して、平成21年6月にオープンを迎えました。将来的には、滞在しながら楽しめるように、キャンプ場の整備も予定しています。



▲（上）笠置町の入口である笠置橋付近の看板は、笠置町のPRとしてプロクライマーの小山田さんも一役買っている
▲（下）エリア入口には、山水を利用した水道も設置された





●小山田大（こやまだだい）
世界を舞台に活躍している日本を代表するプロクライマー。笠置山の質の高さを認め、エリア公開に向けてルートの開拓、全国的に紹介するなど笠置山クライミングエリアの発展に大きく寄与している

わたしは、もともと山歩きが好きでした。そこに岩があり、登ったら楽しかった。中学生のころから、本格的にクライミングを始めました。ボルダリングの魅力は、一人でできることで、自分のペースやレベルでできること。また、ほとんど道具を使わないので、手軽にできます。笠置山の岩は、非常に岩質が高いです。これは、程よい硬さとフ

まよやこ保育園

や行政がバックアップしていることが大きな理由。ほかのエリアでは無いことです。迎え入れる体制は、トップクラスです。わたしが知る限り、駐車場やトイレを整備した前例はありません。とても感謝しています。ボルダリングは、筋肉が必要と思うかも知れませんが、実は身軽で、バランス感覚のある人に向いています。子どもからお年寄りまで楽しめる気軽なスポーツです。そして、興味を持ったらずやってみましょう。市の講座などで、ボルダリングを体験してみてください。専門的な知識を学べば、もっと楽しく始められることができます。エリアは、ハイキングしながら、見学するのもお勧めですよ。

合わせて大切なのは、地域の人たちがクライマーを温かく迎え入れるという意識作りです。地域がクライマーを受け入れるために、ボルダリングを知るためのPRも行っています。笠置公民館に人工壁を設置して公民館講座の開催や、やまびこ保育園児を対象に、人工壁でボルダリング体験も行い大好評。7月25日には、ボルダリングの上映会や写真展示、人工壁の一般開放も行いました。

受け入れ体制が発展
笠置町には、まちづくり実行組織として笠置町活性化委員会があります。その中の産業振興部会で観光資源を開発しています。ボルダリングは、地域全体の観光資源と位置付け、地域を上げて支援しています。エリアオープン1周年を記念して、7月25日に、笠置山クライミング協会が、新しいエリアを発表。新エリアは、「猪まじエリア」といい、約2・1kmの広さに35カ所の岩場が選定されています。これは、魅力的なルートを設定して、全国から集まってくるクライマーに、良好なエリアを提供するためです。



▲6月10日に行われたやまびこ保育園のボルダリング体験。高さ約3mの人工壁に挑戦した。はじめは慎重に手を伸ばしていたが、慣れるとゴールする園児も登場



●石原甲喜（いしはらこうき）
平成20年12月から笠置山クライミング協会の初代会長に就任しボルダリングエリアの公開に携わる。平成21年2月から笠置財産区議長を務めている

2年ほど前に、クライミングエリアの開拓と公開について話がありました。まちづくりの思考を重ねていたときだったので「若い人が、ボルダリングを通じて笠置の地を訪れ、定住してくれば、地域も活性化するのでは」とボルダリングを通じてまちの活性化を理想に、当時の笠置財産区として、2つ返事で了解したことを憶えています。その後、笠置クライミング協会を立ち上げ、エリア周辺の整備を行いました。当初は、山が荒らされないかとの不安の声もありましたが、今までに、そのようなトラブルは一件もありません。クライマーの自然保護の意識と、マナーの良さに驚いています。皆さんにも、ボルダリングとこの

大反響にびっくり

エリアを知ってもらおうと、公民館講座を開催しました。昨年は親子で約50人が参加、ことは大人限定でも20人の参加と反響の大きさにびっくりしています。わたしたちは、エリアの環境整備を含めて、訪れやすい雰囲気をつくることを目指しています。さらに、地域の交流人口の拡大も期待しています。もっとクライマーと地域の交流ができるようにしたい。そのために、エリアを広げ、全国的にPRを行っていく必要もあります。この活動を行うために、1回3000円の入山協力金をお願いしています。地域の宝として、整備しているクライミングエリア。安全とマナーを守って楽しんでほしいです。

危険もあるので注意が必要

自然の中で行うボルダリングは、危険を伴うスポーツでもあります。初心者同士での入山を控えることや、危険を感じたら無理をしないなど、安全には十分注意してください。また、多くの方が訪れるエリアですので、次のルールやマナーを守って、楽しいボルダリングとしてください。

- ・入山受付所で入山記録簿に記帳し、入山協力金300円をお願いします
- ・指定された場所以外では、駐車をしないでください
- ・トポに記載されたエリア以外では、登らないでください。特にペトログラフの岩は、絶対登らないでください
- ・植林された樹木は、伐採禁止です。雑木などの伐採は事前に連絡をしてください。

◀笠置公民館で行われている公民館講座の様子。女性の姿も多い。体全体を使うことがポイント。腕力のみに頼るのではなく、ハシゴを上る感覚で手と足を交互に出していく。体全体を使うので、体が引き締まって、ダイエットにも効果があるといわれている

